

システムズエンジニアリングマネジメント計画書(SEMP) 作成ガイドライン

2020 年 11 月 12 日
宇宙航空研究開発機構
チーフエンジニア・オフィス

目次

1. 本文書の目的	1
2. 関連文書	2
3. SEMP とその利点	2
4. SEMP 作成にあたっての留意事項	3
5. SEMP とプロジェクト計画書の関係と段階的詳細化	3
6. SEMP の骨子例	5
7. 付録(プロジェクト計画書と SEMP の重複目次の整理結果).....	11

1. 本文書の目的

本文書は、「システムズエンジニアリング(SE)の基本的考え方(BDB-06007)」に示されている、各プロジェクトにおけるエンジニアリング活動を定義する文書として、また JAXA 技術プロセスガイドラインの一部として、システムズエンジニアリング・マネジメント計画書(Systems Engineering Management Plan(SEMP))作成における指針・手引きを示すことを目的とする。

SEMP は、プロジェクトに係るエンジニアリング活動の全容、技術的エフォートの詳細について記述し、プロジェクトに関わる全ての人々にそれらの情報を提供するものである。より具体的には、各プロジェクトにおいて、どのような SE プロセスが使用されるか、それらの SE プロセスにおいて具体的にどのような活動が実施されるか等について記述したものである。

各プロジェクトにおいては、プロジェクトマネジメント規程及びプロジェクトマネジメント実施要領等で規定される各フェーズの活動、審査事項等を参考に、各プロジェクトで実施すべき全てのエンジニアリング活動、技術的エフォートを、この SEMP に落とし込むことが推奨される。各プロジェクトにおいて作成された SEMP が、プロジェクトの遂行にあたっての羅針盤・バイブルとなることを期待する。

2. 関連文書

(ア) 準拠文書

- (1) 機構プロジェクト実施に係る基本方針(平成 29 年 5 月)
- (2) プロジェクトマネジメント規程(規程第 30-45 号)
- (3) プロジェクトマネジメント実施要領(チーフエンジニア室長通達令和第 2-2 号)
- (4) システムズエンジニアリングの基本的な考え方 (BDB-06007)

(イ) 適用文書

- (1) JAXA 技術プロセスガイドライン一覧(BDB-08014)

3. SEMP とその利点

システムズエンジニアリング(SE)とは、システム(開発)を成功裏に実現するための、複数の分野にまたがるアプローチ及び手段である(INCOSE SE Handbook Ver.4.0 より)。その中で、SEMP は、プロジェクトライフサイクルにわたって遂行される、全てのエンジニアリング活動の基礎・土台となる文書であり、プロジェクトにおけるエンジニアリング活動の全容を俯瞰することを目的とした文書である。

SEMP は、プロジェクトライフサイクルにわたって、各フェーズの入口、出口の基準を満たすために必要な作業と成果物を実現するための枠組みを、プロジェクトに関わるすべての人々に提供・周知し、また、プロジェクトの技術進捗を評価・管理するのに必要な情報を、マネジメント層を含むプロジェクト内外の関係者に提供するものである。

SEMP 作成の利点としては、以下の点が挙げられる。

- ミッション検討の初期段階から、プロジェクトライフサイクル全体を見通したエンジニアリング活動の計画を立てることで、いつ、誰が、何を、どのように実施・管理するのかについて、プロジェクト内外の関係者で共通の認識を持てる。
- ミッションの検討開始時に SEMP への記載事項だけでも決めておくことで、技術的な活動を実行する上で、何が必要な詳細度で明確になっているのか、何が TBD でありそれをいつ明確にするのか等について関係者間で共通の認識を持つことができる。
- プロジェクトにおけるエンジニアリング活動が可視化されることで、漏れや無駄、矛盾やリスクについての議論、検討が促進され、プロジェクト遂行上、将来起こり得る問題・課題を未然に解決する助けとなることが期待される。

4. SEMP 作成にあたっての留意事項

SEMP は生きた文書であり、進捗や計画の変更に伴い適宜更新されるべきものであるため、以下の2点を考慮したうえで作成すべきである。

- プロジェクトにおいて管理が必要となる事項、開発関係者間で認識の共有が必要な事項を記載する。
- 段階に応じた深さ(詳細度)で記述すればよいが、広さ(対象とする範囲)は当初からカバーしておくことが望ましい。

5. SEMP とプロジェクト計画書の関係と段階的詳細化

- SEMP はプロジェクト計画書の一部であり、プロジェクトマネジメントのうち技術マネジメントに係る文書である。
- プロジェクト準備段階に移行するにあたっては、ミッション定義審査(MDR)/プロジェクト準備審査において、システム開発の基本方針や採用予定技術のレベルの現状と開発方針、ライフサイクルにおける SE プロセスの実施方針、ライフサイクルと審査計画等について、プロジェクト内外の関係者で合意する必要がある。
- その後、RFP を行うにあたって、JAXA 内及び調達相手方に要求すべき技術管理計画について詳細化し、システム要求審査(SRR)で承認を受けて、制定する。
- RFP 後、プロジェクト実行段階に移行するにあたっては、システム定義審査(SDR)/プロジェクト移行審査において、システム開発企業との調整結果を反映し、変更部分とその影響についてプロジェクト内外の関係者で合意する。
- 上記の段階的詳細化の考え方(各フェーズ審査項目との関係)を表 1 に示す。

表 1 プロジェクト計画立案にかかる管理文書、技術文書の段階的詳細化

	文書		項目	MDR/準備審査	SRR	SDR/移行審査
マネジメント文書	プロジェクト計画文書	1.本計画書の目的・範囲		○	※	●
		2.関連文書		○	※	●
		3.プロジェクトの概要（タイトル）		N/A	N/A	N/A
		(1)プロジェクト目標 (ミッション要求書参照)		N/A	N/A	N/A
		(2)プロジェクトの成功基準 (ミッション要求書参照)		N/A	N/A	N/A
		(3)プロジェクトの範囲		○	※	●
		(4)プロジェクトの前提条件・制約条件		○	※	●
		(5)プロジェクトの遂行方針		○	※	●
		4.プロジェクトの文書体系		○	※	●
		5.プロジェクトの体制		○	※	●
		6.プロジェクトの役割分担		○	※	●
		7.プロジェクト資金		○	※	●
		8.プロジェクト・スケジュール		○	※	●
		9.プロジェクトマネジメント計画（タイトル）		N/A	N/A	N/A
		(1)リスク管理計画 (リスク管理計画書参照)		N/A	N/A	N/A
		(2)調達マネジメント計画 (調達マネジメント計画書参照)		N/A	N/A	N/A
		(3)ステークホルダマネジメント計画		○	※	●
		(4)進行管理計画			○	●
		(5)資金管理計画			○	●
		(6)コンフィギュレーション管理計画			○	●
		(7)品質管理計画			○	●
		(8)信頼性管理計画			○	●
		(9)安全管理計画			○	●
		(10)人材育成計画				●
		(11)コミュニケーションマネジメント計画				●
		(12)ナレッジマネジメント計画		○	※	●
		10.システムズエンジニアリングマネジメント計画 (SEMP参照)		N/A	N/A	N/A
技術文書	文書		項目	MDR/準備審査	SRR	SDR/移行審査
	リスク管理計画書			●		
	(リスク識別書)			○	○	○
	調達マネジメント計画書			●	●	※
			(計画案)		(計画書)	
	文書		項目	MDR/準備審査	SRR	SDR/移行審査
	SEMP	1.SEMP作成の目的・範囲		○	●	※
		2.関連文書		○	●	※
		3.システム開発の基本方針		○	●	※
		3.1システム開発の基本方針（技術開発方針、検証方針）		○	●	※
		3.2信頼性設計の基本方針（冗長系の考え方等）		○	●	※
		3.3開発に用いる設計標準の基本方針		○	●	※
		4.搭載予定機器・技術の現状と開発方針		N/A	N/A	N/A
		4.1技術成熟度及び技術変更度の評価方針		○	●	※
		4.2TRLの低い新規技術/技術変更度の大きい技術に対する開発方針		○	●	※
		5.ライフサイクルにおけるSEプロセスの実施方針		○	●	※
	システム仕様書	6.ライフサイクルと審査実施計画		○	●	※
		7.重要なプロジェクト/システム技術性能・パラメータの測定・管理計画			●	※
	8.技術データ管理、情報化の考え方、セキュリティ方針等				●	※
技術文書	文書		項目	MDR/準備審査	SRR	SDR/移行審査
	ミッション要求書	ミッション目的		●	○	○
		ミッション目標		●	○	○
		成功基準		●	○	○
	システム仕様書				●	
	システム仕様書					●

○各フェーズ審査において審査する項目

●各フェーズ審査において審査し、ベースライン化する項目

※各フェーズ審査において変更部分とその影響を審査するもの

6. SEMP の骨子例

以下に SEMP の目次・骨子例を示す。

(《 》部は、記述にあたっての留意事項や内容例を示している。)

1. SEMP 作成の目的・範囲

(1) 本文書の目的

《各プロジェクトにおけるSEMPの主要目的を端的に記述する。例:プロジェクトにて実施すべきエンジニアリング活動、技術的エフォートを定義し(何を、いつ、だれが、どのように実施・管理するのか)、プロジェクトに関わる全ての人々に周知するもの、維持・管理するものである、等》

(2) 本文書の範囲

《SEMP が対象とする範囲を記述することにより、対象範囲を明らかにする。》

2. 関連文書

《以下に、SEMP に対する関連文書を規定する。プロジェクトマネジメント規程、プロジェクトマネジメント実施要領、SE の基本的考え方、等。関連文書は、SEMP 制定時の最新版を用いる。》

(1) 準拠文書

(2) 適用文書

3. システム開発の基本方針

(1) システム開発の基本方針 (既存品、新規技術の導入方針等)

① システム開発におけるモデルの考え方、統合、試験・検証方針

② ミッション要求、システム要求、システム仕様の検証方針

(2) 信頼性設計の基本方針 (冗長系の考え方等)

(3) 開発に用いる設計標準の基本方針

《新規・既存技術の採用方針、開発方式、試験/解析による検証方針、信頼性設計の基本方針、採用する設計基準等について方針を示す。

例:

衛星バスは、フライト実績のある既存技術を継続的に使用することで、繰り返し使用による高信頼性を達成する。既存技術で、ミッション要求に対応できない部分に対しては、その部分のみ開発または改修を実施することとし、その改修の影響については変更部分だけでなく、周辺部分や全体への影響を十分に調査・検討し、開発方式、検証計画を立案することとする。

信頼性向上策として、1. サバイバビリティの強化、2. 冗長化または機能冗長、3. 耐久性(可動・消耗機器の長期寿命試験・評価)の強化、4. 異常発生時のデータ取得等を徹底することとする。

開発に用いる設計標準は JAXA 設計標準をもとにプロジェクトで制定する。》

4. 搭載予定機器・技術の現状と開発方針

(1) 技術成熟度及び技術変更度の評価方針

(2) TRL の低い新規技術/技術変更度の大きい技術に対する開発方針

(TRL 向上の方策、異常時(コンティンジェンシー)における考え方等)

《本項は、プロジェクトにおける技術開発リスクを識別し、それらのリスク低減策を検討するための項である。RFP 前においては、その時点における JAXA の想定案を記述すれば良い。RFP 後はシステム開発企業との調整結果を反映し、SDR/プロジェクト移行審査時まで確定すること。》

5. ライフサイクルにおけるシステムズエンジニアリング(SE)プロセスの実施方針

(1) 以下の各 SE プロセス(機能)について、その具体的な内容(何を(What)、誰が(Who)、いつまでに(When)、どのように(How))を記述する。

－ SE における主要な4つの活動 －

- システム設計(Design) 【①～④】
- 統合(Integration) 【⑤～⑦】
- 検証・妥当性確認(Verification & Validation) 【⑧～⑩】
- システムズエンジニアリング管理(SE Management) 【⑪～⑯】

表1. ○○プロジェクト/ミッションにおける SE プロセスの定義

	SE プロセス(機能)	実施方針(何を、誰が、いつまでに、どのように)
システム設計	① ミッション目的の理解(ミッション要求分析・定義)	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？プロジェクトにおいて実施するミッション要求の分析、定義等について記述する》
	② 利用・運用コンセプトの策定	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？プロジェクトにおいて実施する利用運用コンセプトに係る事項について記述する》
	③ 要求の分析(システム要求分析・定義)	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？システム要求分析・定義、システム仕様の策定等について記述する》
	④ 設計	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？プロジェクトにおいて実施する設計に係る事項を記述する》
統合	⑤ 製作	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？製作・試験についてその管理まで含めて記述する》
	⑥ 統合	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？コンポーネントからサブシステム、システムに至るまでの組み立て、インテグレーション、試験について、その管理まで含めて記述する》

検証・妥当性確認	⑦ 運用	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？運用について記述する》
	⑧ 解析	《④及び⑨と密接に関連する項であるが、何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？本プロジェクトで実施する解析について記述する等》
	⑨ 検証・妥当性確認	《何を、誰が、いつまでに、どの要求に対して、どのように検証（製品の試験結果が設計通りに出来ているかを確認する行為）、妥当性確認（製品が要求通りに出来ているかを確認する行為）を行うのか？等》
	⑩ 受入れ	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？開発されたシステムの受入れ基準は？誰が受入れを行うのか？JAXA と企業、他機関（海外宇宙機関）等との間でどのような責任分担が予定されているのか？等》
SE マネジメント	⑪ 要求管理	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？本プロジェクトではどのような要求に係る文書が作成、維持管理される予定か？等》
	⑫ I/F 管理	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？どのような I/F 管理文書（ICS、ICD 等）が作成される予定か？各々を誰が作成するのか？誰が承認するのか？等》
	⑬ 技術計画	《コスト、スケジュール、品質を、誰が、いつまでに、どのように管理するのか？プロジェクトで必要となるリソース（資金、人員含む）を、どのように配分・管理する計画か？等》
	⑭ TPM（Technical Performance Measures）管理	《何を（何のパラメータを）、誰が、いつ、どのように測定、管理する計画か？等》
	⑮ コンフィギュレーション管理	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？どのようなコンフィギュレーション管理プロセスが計画されているか？いつコンフィギュレーション管理ボード（CCB）が設置されるのか？等》
	⑯ リスク管理	《何を、誰が、いつまでに、どのように、行うのか？どのようなリスク管理計画が計画されているか？等》

(2) 各フェーズの目的、各フェーズにおける①入力、②具体的活動及び③アウトプット（文書等の成果物）

《PM 実施要領に照らして、当該プロジェクト/ミッションにおいて、各フェーズの目的及び各フェーズで何を実施するのかについて、文章で定義する。

その上で、下記の表2のようにフェーズ毎（ミッション定義フェーズ、概念設計フェーズ、予備設計フェーズ、基本設計フェーズ・・・等）に、前項で定義した SE プロセスについて、その入力、具体的活動、成果物（文書・プロダクト等のアウトプット）を定義する。》

表2. 各フェーズでの SE プロセスの具体的活動及び入力・成果物(アウトプット)の定義

\ フェーズ		ミッション定義フェーズ			...
SE プロセス(機能)		入力	具体的活動	成果物	
システム設計	① ミッション目的の理解(ミッション要求分析・定義)				...
	② 利用・運用コンセプトの策定				...
	③ 要求の分析(システム要求分析・定義)				...
	④ 設計(機能設計・物理設計)				...
統合	⑤ 製作				...
	⑥ 統合				...
	⑦ 運用				
検証・妥当性確認	⑧ 解析				
	⑨ 検証・妥当性確認				...
	⑩ 受入れ				...
SEマネジメント	⑪ 要求管理				...
	⑫ I/F 管理				...
	⑬ 技術計画				...
	⑭ TPM 管理				...
	⑮ コンフィギュレーション管理				...
	⑯ リスク管理				...

6. ライフサイクルと審査実施計画

(1) ライフサイクルでの審査全体計画

《ライフサイクル全体での審査計画を、RFP で企業に要求する予定の審査会の粒度で記述する。システム/サブシステム/コンポーネントレベル、及び JAXA 審査とメーカー審査、必要に応じて技術ピアレビューを実施、等。》

(2) 各々の審査会での審査事項

《PM 実施要領の本文及び別紙1に照らして、プロジェクトにおける各審査会の目的、審査事項等を定義する。》

7. 重要なプロジェクト/システム技術性能・パラメータ(TPM: Technical Performance Measures)の測定・管理計画

以下のような項目が、プロジェクト/ミッションの遂行上、重要管理アイテムとして考えられる。(その他、推薬、メモリ・CPU、テレコマ、バス帯域、RF リンク、指向等を、プロジェクト/ミッションの特質に応じて、適宜追加して管理しても良い。)

- ① 質量マージン
- ② 電力マージン
- ③ 審査会に係るトレンド(A/I(全体、Closed、Open アイテム))
- ④ 要求トレンド(クローズした TBD の要求数、要求の変更数)
- ⑤ I/Fトレンド(承認された ICD 数、I/F 要求の変更数)
- ⑥ 検証トレンド(承認された/オープンのデビエーション/ウェイバーの数)
- ⑦ 不具合報告トレンド(不具合の Closed/Open の数)
- ⑧ コストトレンド(EVM)
- ⑨ スケジュールトレンド
- ⑩ 人員トレンド

《プロジェクト遂行にあたっての確度を上げるべく、各プロジェクトにとってキーとなる上記パラメータを、継続的かつ定量的に測定・管理することで、そのプロジェクトが *Positive* (+) な方向に向かっているのか、*Negative* (—) な方向に向かっているかが可視化され、プロジェクト内外の関係者がその状況を把握・管理し易くなる。》

8. 技術データ管理、情報化の考え方、セキュリティ方針等

《SE プロセスでアウトプットされる技術データから、管理すべきデータを識別し、それらの管理方針を定める。技術データの関連付けを明らかにし、最新の状態を維持すること(JAXA-企業間を含む)。

また、使用する情報システム、ツールについても、本項で宣言することにより関係者の共通認識とする。

例) XX 衛星の技術データ管理は上記 SE プロセスで発生するデータを対象範囲とする。SE プロセスで発生するデータには、極力、再利用可能な電子データとして管理し、〇〇部門の〇〇プロジェクトで採用している〇〇文書管理システムを使用することとする。

技術データは、「〇〇規程」に従いセキュリティ管理する。管理対象とする技術データの詳細については、以下の通りである。

① 衛星開発の過程で得られた技術データ

メーカーから提出される設計結果、試験結果、解析用モデル等に関しては、それぞれの条件、関係を明確にして、保存する。

② システム間のインタフェースデータ

〇〇衛星とのインタフェースデータは、バージョンと変更時期、内容に関して管理する。

③ ……》

以上

7. 付録（プロジェクト計画書と SEMP の重複目次の整理結果）

付録1：プロジェクト計画書ガイドラインの目次変更（文書間の重複削除）

【Before (NC版)】	変更理由	【After (A版)】	MDR 準備審査	SRR	SDR 移行審査
1.プロジェクト計画書の目的・範囲		1.本計画書の目的・範囲	○	※	●
2.関連文書		2.関連文書	○	※	●
3.プロジェクトの概要(スコープ、開発方針)		3.プロジェクトの概要（タイトル）	N/A	N/A	N/A
(1)プロジェクト目標	ミッション要求書と重複するため参照	(1)プロジェクト目標 (ミッション要求条件書参照)	N/A	N/A	N/A
(2)プロジェクトの成功基準	ミッション要求書と重複するため参照	(2)プロジェクトの成功基準 (ミッション要求条件書参照)	N/A	N/A	N/A
(3)プロジェクトのスコープ		(3)プロジェクトのスコープ	○	※	●
(4)プロジェクトの前提条件・制約条件		(4)プロジェクトの前提条件・制約条件	○	※	●
(5)プロジェクトの遂行方針		(5)プロジェクトの遂行方針	○	※	●
—(6)開発方針および開発計画 (SEMP参照可)—	SEMPと重複するため削除		N/A	N/A	N/A
4.プロジェクトの文書体系		4.プロジェクトの文書体系	○	※	●
5.プロジェクトの体制		5.プロジェクトの体制 (*1)	○	※	●
6.プロジェクトのWBS (Work Breakdown Structure)		6.プロジェクトWBS	○	※	●
7.プロジェクト資金		7.プロジェクト資金	○	※	●
8.プロジェクト・スケジュール		8.プロジェクト・スケジュール	○	※	●
9.プロジェクトマネジメント		9.プロジェクトマネジメント計画（タイトル）	N/A	N/A	N/A
(1)進行管理（スケジュール管理を含む）		(1)リスク管理計画 (リスク管理計画書参照) (*2)	N/A	N/A	N/A
(2)資金管理		(2)調達マネジメント計画 (調達マネジメント計画書参照)	N/A	N/A	N/A
(3)リスク管理		(3)ステークホルダマネジメント計画 (*3)	○	※	●
(4)コンフィギュレーション管理		(4)進行管理計画 (*2)		○	●
(5)品質管理		(5)資金管理計画		○	●
(6)信頼性管理		(6)コンフィギュレーション管理計画 (*2)		○	●
(7)安全管理		(7)品質管理計画 (*2)		○	●
(8)調達マネジメント		(8)信頼性管理計画 (*2)		○	●
10.システムズエンジニアリングマネジメント計画		(9)安全管理計画 (*2)		○	●
11.調達マネジメント計画	9(8)と重複するため削除	(10)人材育成計画 (*1)			●
12.リスクマネジメント計画	9(3)と重複するため削除	(11)コミュニケーションマネジメント計画 (*3)			●
13.人材育成計画		(12)ナレッジマネジメント計画	○	※	●
14.品質マネジメント計画	9(5)と重複するため削除	10.システムズエンジニアリングマネジメント計画 (SEMP参照)	N/A	N/A	N/A
15.ステークホルダマネジメント計画					
16.コミュニケーション計画					
17.ナレッジ・マネジメント計画					

○各フェーズ審査において審査する項目

●各フェーズ審査において「計画書」としてベースライン化するもの

※各フェーズ審査において変更部分とその影響を審査するもの

*1：「5.プロジェクト体制」にプロジェクトチーム内、機構内及びパートナー体制、フェーズ毎の人員プロファイルを記載し、9(10)は人材育成計画のみ記載する想定。（記載内容をガイドラインで明確に例示する。）

*2：調達仕様書に記載するメーカーへの管理要求としては、9項のリスク管理、進行管理、コンフィギュレーション管理、品質管理、信頼性管理、安全管理が一般的である。

*3：必須ではないがPMBOKに照らして計画立案することが望ましい。

付録2. SEMPガイドラインの目次変更（文書間の重複整理結果）

【Before（NC版）】	変更理由	【After（A版）】	MDR 準備審査	SRR	SDR 移行審査
1.SEMP作成の目的・範囲		1.SEMP作成の目的・範囲	○	●	※
2.関連文書		2.関連文書	○	●	※
3.ミッション概要			N/A	N/A	N/A
—3.1ミッション概要（ミッション要求書、利用・運用コンセプト参照可）—	ミッション要求書や利用・運用コンセプトと重複するため削除		N/A	N/A	N/A
—3.2システム構成	システム要求書と重複するため削除		N/A	N/A	N/A
—3.3計画立案上の制約条件	プロジェクト計画書3項と重複するため削除		N/A	N/A	N/A
4.システム開発の基本方針		3.システム開発の基本方針	○	●	※
4.1システム開発の基本方針（技術導入方針、検証方針）		3.1システム開発の基本方針（技術開発方針、検証方針）	○	●	※
4.2信頼性設計の基本方針（冗長系の考え方等）		3.2信頼性設計の基本方針（冗長系の考え方等）	○	●	※
	JAXA設計標準を適用しないプロジェクト例があるため追加	3.3開発に用いる設計標準の基本方針	○	●	※
5.搭載予定機器・技術の現状と開発計画		4.搭載予定機器・技術の現状と開発計画	N/A	N/A	N/A
5.1技術成熟度及び技術変更度の評価方針		4.1技術成熟度及び技術変更度の評価方針	○	●	※
5.2技術成熟度及び技術変更度の評価結果	設計結果であるため、計画書であるSEMPからは削除		N/A	N/A	N/A
5.3TRLの低い新規技術/技術変更度の大きい技術に対する開発計画		4.2TRLの低い新規技術/技術変更度の大きい技術に対する開発計画	○	●	※
6.ライフサイクルにおけるSEプロセスの実施方針		5.ライフサイクルにおけるSEプロセスの実施方針	○	●	※
7.ライフサイクルと審査実施計画		6.ライフサイクルと審査実施計画	○	●	※
8.開発スケジュール	プロジェクト計画書8項と重複するため削除		N/A	N/A	N/A
9.重要なプロジェクト/システム技術性能・パラメータの測定・管理計画		7.重要なプロジェクト/システム技術性能・パラメータの測定・管理計画		●	※
10.技術データ管理、情報化の考え方、セキュリティ方針等		8.技術データ管理、情報化の考え方、セキュリティ方針等		●	※
11.知識の有形化と活用計画	プロジェクト計画書9項と重複するため削除	○各フェーズ審査において審査する項目 ●各フェーズ審査において「計画書」としてベースライン化するもの ※各フェーズ審査において変更部分とその影響を審査するもの			
12.エンジニアリング活動の実施体制	プロジェクト計画書5項と重複するため削除				
13.コミュニケーション計画	プロジェクト計画書9項と重複するため削除				